

Report of Electrical and Electronics Engineering Experiment

Exp. No. 592

「スイッチドキャパシタ回路の特性」

2005 年度 No. E5__ __ Group____ Name_____

Partners_____

実験日 Date . . ()

Numazu College of Technology

Department of Electrical and electronics Engineering

提出日	チェック項目
1 . .	必須(受取るかどうかのチェック) レポートの体裁が整っている
2 . .	目的を書いている 論じ方が科学的である(反対語は、「根拠の無い論じ方をする」)
3 . .	実験結果に敬意を払っている 全対数グラフ上に実験結果を正しくプロットできた
4 . .	横軸を時間としたタイミングチャートを(波形の不適切な部分があるにせよ)書く ことができた
5 . .	逆項目:この項目は、以下の項目を無効にする 期限を大幅に遅れた
6 . .	必須(以下の5項目にも必ずトライすること。平均点がつくかどうかのチェック) 論じ方が丁寧であり抜かりが無い
7 . .	論ずるに当たって、前回の実験の結果を引用している 低い周波数帯における理論線を、全対数グラフ上に正しく引くことができた 高い周波数帯における理論曲線を、100 kHz までの帯域において、全対数グラフ 上に正しく引くことができた 横軸を時間としたタイミングチャートを <u>正しく</u> 書くことができた 逆項目:この項目は、以下の項目を無効にする 期限を守らない
	加点ぶん 理論について、自分なりに勉強してまとめた 論じ方に独創性がある タイミングチャートから、今回の回路が離散時間処理を行う回路であることを説明 できた